

# 青空に高らか「シャンゼリゼ！」

## 弘大生の団体 仏文化を発信

弘前

弘前大学の学生団体「弘前グロローカル・アクション」は26日、弘前市土手町の蓬莱広場で恒例の青空市「フランス日和〜マルシェ2020」を開いた。7回目となる今年はマスク着用など新型コロナウイルス対策を徹底。来場者は感染防止に協力しながら、歌やゲーム、飲食を通してフランス文化に理解を深めた。同団体は、市内にある身近なフランス文化などを研究している。

今年のマルシェは「密」を避けるため、昨年20あつ



「オー・シャンゼリゼ」を振り付けを交えて歌う弘前グロローカル・アクションのメンバー

た出店を約半数に減らして開催。会場の様子をオンラインで中継した。

会場にはスイーツや花、雑貨の出店のほか、占い、カードゲームのコーナーが並んだ。休憩広場では、弘大生が欧州の伝統的な楽器「手回しオルガン」の演奏に合わせ、「オー・シャンゼリゼ」を来場者とともにフランス語で歌った。

来場者はソーシャルディスタンスを取りながら催しを観賞したり、コーヒーやスイーツを味わって初秋の休日を楽しんでいた。

メンバーの原田薫櫻さん（弘大人文社会科学部3年）は「新型コロナウイルスの影響で、準備期間も短く大変だったが、マルシェを途絶えさせることなく実施できて良かった」と話した。

（菊谷賢）

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです